

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

「関西方面で 栄養学を 学べる大学に行きたい。」というのが、高校3年になった春の時点での私の希望でした。  
同志社女子大学は 管理栄養士の国家試験合格率が 高く 志望大学の1つとして受験し、別に志望していたもう1校と共に合格をいただいたことがありますが、周囲の先生や先輩方に同志社女子大学への進学を薦められたこと、そして大学の印象の良さが決め手でした。

(2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕 1学期の時点で志望校は全て私立大学だったため、必須科目は少なかったのですが、苦手なものをそのまゝにしておくことが、嫌いな性格のため、受験科目に関体なく、全ての科目において中間テストや問題集で解けるように、模範解答や問題集とまとめるシートを作成、隙間時間に見返していました。1学期はほぼ授業も終わっていたので、中間テストに向けて苦手な作問の仕方に勉強し、過去の模範シートを見、あはしい所を問題集でくり返し解いていました。

〔夏休み〕 1学期の課題は、どの科目においても解くスピードが遅いことでした。そこでまず、どの大学でも必須となる英語の点数を伸ばすため、毎日音読をするようにしました。使う教材は、高校で夏休みの課題として出された英語長文の問題集で、まず問題を解き、分からない単語の意味を書き出し、その日のうちに覚え、次の日、音読をした後またその意味を確認するということを夏休みの習慣にしました。英語以外の科目は、苦手にした化学・数学を1学期と同じように解いて、日本語はひと通りおぼえ、頭をスッキリさせた状態で、細かい部分をセブー過去問の解説書を使って補足していました。生物と国語は、この時点で課題が出されたものを解説を讀みながら復習することができていました。

〔2学期～入試直前〕 志望校の科目に合わせて、教科書勉強を始めたのは2学期の中間テスト後でした。必要だったのは、生物・英語・古文・現代文でした。生物はそれと好きで、資料集や参考書を使って深いところまで追求するつもりだったので、セブー過去問や学校で使うセブー直前対策の問題を解き、全ての解説に目を通し、知らないところはノートにメモして、休み時間や登下校の隙間時間に何度も見返して覚えました。英語はセブー過去問をひたすら解きました。現代文と古文は平気で苦手だったので、セブー対策の問題を1日3つほど解いて、現代文は漢字や語彙をノートにまとめ、長文問題を分からない所を学校の先生に質問していました。古文は単語帳を新訂の1冊1冊ずつ、問題を解いて、解説を讀んで、知らない単語をノートにまとめ、覚えるまで毎日見返しました。特に、同志社女子大学の過去問には古典の知識問題があったので、その日に讀んだ文章のタイトルと成立年代を必ず覚えておくようにしました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

スマートフォンは、お母さんにロックをかけておいて、必ず不可欠のアプリ以外は23時から2時までの間は使っていないようにしていました。実際毎日家に帰ると、23時半頃で10分ほど使ったらお風呂に入って寝ていました。制限はかけていたのですが、SNS等のアプリはやりすぎたことは私にはありません。毎日少しでも息を抜ける時間を作るのが大切だと思います。

どなたにも頑張ってもらって、点数は伸びないけど、私自身模試の結果を見て泣くこともたくさんありました。でも、終わってからは友達と話をすると、みんなそういう経験があることに知りました。だから、その時に踏ん張れる力が受験勉強には必要だと思っています。私は1人で頑張るよりも強くなってほしいけれど、同じ塾に通っている友達とお互いに励みあってくれる仲間が欲しいなと思いました。一緒に頑張ろうと思える友達がいることが受験勉強をする上で私の一番の支えでした。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

この1年間は、受験生にとって7分にはすぎない時間だと思っております。でも、本心から頑張れば頑張れば1年後に得るものは大きいと思います。自分に聞きたい、人に聞かせるべき、応援してもらえれば、良い友達との関係が築かれたら親の存在の大きさも私は気づくことができて、ありがたき思いです。本気でやれば、志望校に合格できるくらい頑張ってください。応援しています。